

ももとせ

第423号

29年度12月

中野区立桃園小学校

「体験的活動を通して」

副校長 井上 江見子

早いもので今年もあと1ヶ月となりました。

社会の構造的な変化に合わせて、教育制度も変革される時期を迎えています。その一つが2020年教育改革です。大学入試改革に向けて教育が大きく変わります。変化の激しいこの社会を生き、活躍できる人材育成を目指しています。子供の将来に対する価値観をどこに求めればよいのでしょうか。

これまでの日本の学校教育では、言われたことをその通りにきちんと実践することが多く求められていたように感じます。しかし、これからの時代、言われたことをこなすことは、今後、急速に発達する可能性があると思われるAI（人工知能）がやってくれるのではないのでしょうか。では、子供のどんなところを伸ばしていく必要があるのでしょうか。私は、体験活動を充実させ、活動を通して豊かな心を育むことが大切だと考えます。また、体験活動から、人との関わりのためのコミュニケーション能力を身に付けることができると考えます。

豊かな心や人間性を育てていくためには、子供たちが様々な体験活動を通じて「生命の有限性や自然の大切さ」、「自分の価値を認識しつつ他者と協働すること」の重要性を実感できる機会を増やす必要があります。他人を思いやる心や感動する心は、体験的活動からも培われるものです。

具体的には、国立青少年教育振興機構「青少年体験活動に関する実態調査」（平成26年度調査）によると、小学校4～6年生のうち約2割が「チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと」「海や川で貝を採ったり、魚を釣ったりしたこと」がほとんどないことがわかりました。本調査により自然体験が豊富な子供ほど、自己肯定感や道徳観が高い傾向にあることが明らかになっています。

本校では、10月に2年生の生活科見学で動物とふれ合う活動をするため、今年度は、井の頭公園に行きました。モルモットにふれ合うコーナーでの体験活動に取り組みました。11月24日には、3年生の総合的な学習「自分も人も大切に」のゲストティーチャーとして高橋さんと盲導犬テラを迎えました。盲導犬の仕事について学び、実際に階段を上り下りする様子を見させていただきました。今月9日には、学校公開日で6年生が総合的な学習の時間に地域の方をゲストティーチャーに迎え、茶道体験をさせていただき予定です。どちらも継続して行っています。

同調査の他項目で「バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席を譲ること」については、日常的な行動に移せていない割合（「あまりしていない」「していない」と回答の合計が、小学校4年生で60.7%、5年生で53.7%、6年生で52.0%見られました。この結果はまだ不十分だと感じます。子供たちには、人としてよりよく生きる上で、人との関わりを大切にしてほしいと願います。他人を思いやる豊かな心を育てていくために、体験活動という視点からもご家庭・地域の方々のご協力を今後ともよろしく願います。

<オリンピック・パラリンピック教育>

ウィルチェアー（車椅子）ラグビー体験授業

～12月1日（金）2、3校時 体育館～

今井友明先生をお招きして講話と体験授業が行われます。3校時は6年生が体験します。

<道徳授業地区公開講座>

命の大切さの講話

～12月9日（土）3校時 10:25～11:10 体育館～
堀内聡子（あきこ）先生をお招きして「誕生学」という分野からご講演いただきます。

ふるってご参加の程よろしく願います。

今月のめあて

【生活】身の回りをきれいにしよう。【安全】清掃活動の決まりを守ろう。

【保健】冬の健康に気を付けよう。【給食】感謝の気持ちをもって食事をしよう。

12月の児童数
379人